

ApexSQL Recover クイックガイド

目次

[はじめに](#)

[インストール](#)

[インストール対応OS](#)

[ApexSQL Recover のインストール](#)

[ライセンスのアクティベーション](#)

[DROPしてしまったテーブルのリカバリ](#)

[復旧フローチャート](#)

はじめに

このガイドはApexSQL Recover のインストールおよび基本的な操作手順を説明します。
また、検証環境での利用を目的としたガイドです。



インストール

インストール対応OS

WindowsServer 2012

Windows 8.1 & Windows Server 2012 R2

Windows 10 & Windows Server 2016

Windows Server 2019

Windows 11 & Windows Server 2022

その他システム要件詳細は下記リンクを参照下さい。

<https://www.quest.com/community/jp-ja/w/information-management-wiki/2321/apexsql-recover>

ApexSQL Recover インストールの前に

トライアルのシナリオとして、本番SQLサーバでWHERE句を指定せず、誤ってテーブルを削除してしまった想定です。

本番SQLサーバとは別の、テスト用SQLサーバをご用意ください。

本番SQLサーバのDBファイル（MDF,LDF）を、テスト用SQLサーバにコピーして、DBファイルをアタッチします。

テスト用SQLサーバにApexSQL Recoverをインストールします

本番SQLサーバ



① MDF,LDFファイルをコピー



テスト用SQLサーバ



② MDF,LDFファイルをアタッチ

③ ApexSQL Recoverをテスト用SQLサーバにインストール

ApexSQL Recover のインストール

評価版をダウンロードした場合
ApexSQL統合インストーラとなります

ApexSQLInstaller.exe (1.6GB)を実行し
エディションリストでCustomを選択し
ApexSQL Recoverをチェックします

保守契約ユーザ様は、サポートサイトから
ApexSQL Recover単体インストーラを
ダウンロード可能です
ApexSQLRecover.exe (55MB)

ApexSQL setup

Select an existing bundle or custom tools to install

ApexSQL Compare and Sync Toolkit for SQL Server

Custom

ApexSQL Fundamentals Toolkit for SQL Server

ApexSQL Compare and Sync Toolkit for SQL Server

ApexSQL DevOps Toolkit for SQL Server

ApexSQL DevOps Plus Toolkit for SQL Server

ApexSQL Operations Toolkit for SQL Server

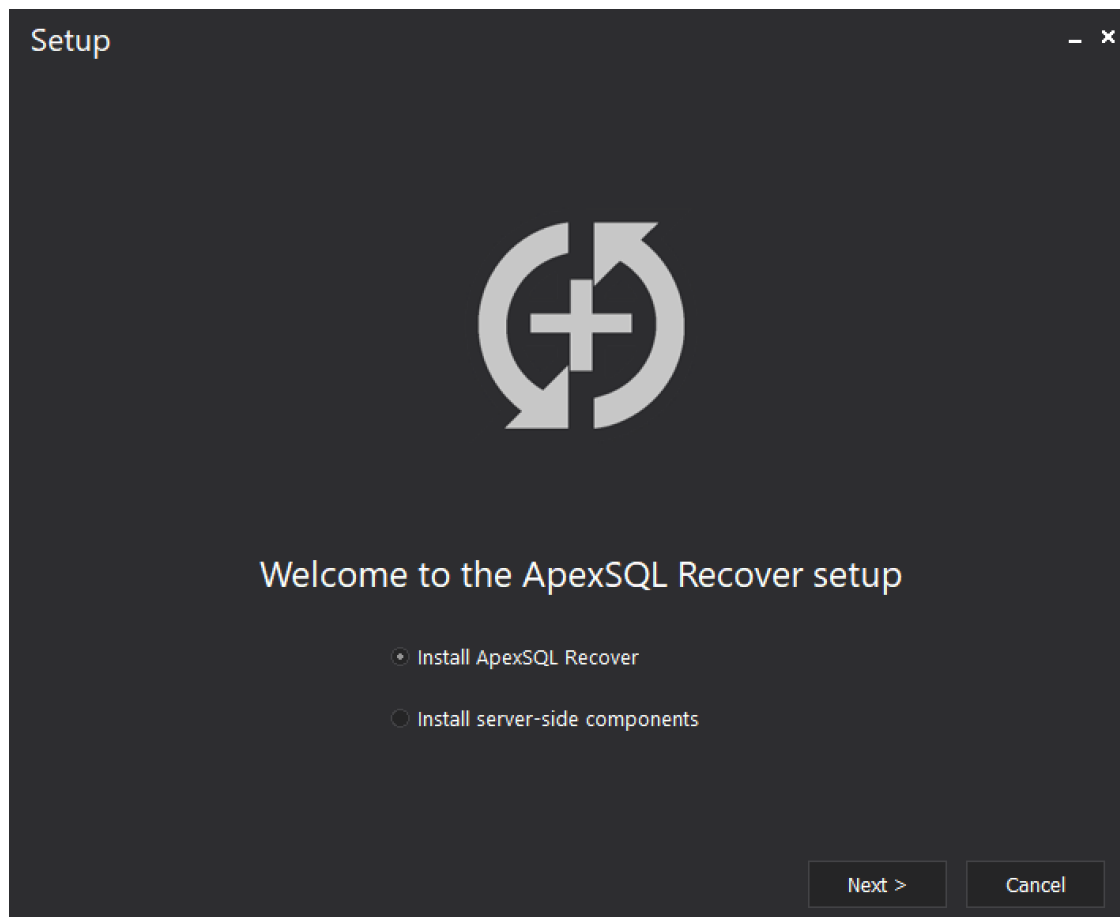
ApexSQL Operations Plus Toolkit for SQL Server

☐	ApexSQL Build	130.8 MB
☒	ApexSQL Compare	96.3 MB
☐	ApexSQL Complete	101.3 MB
☒	ApexSQL Data Diff	199.6 MB
☐	ApexSQL Decrypt	76.7 MB
☐	ApexSQL Defrag	127.7 MB
☐	ApexSQL DevOps toolkit dashboard	306.3 MB
☒	ApexSQL Diff	242.8 MB
☐	ApexSQL Doc	121.4 MB
☐	ApexSQL Enforce	110.8 MB
☐	ApexSQL Generate	108.1 MB
☐	ApexSQL Job	89.2 MB
☐	ApexSQL Log	153.7 MB
☐	ApexSQL Manage	184.1 MB
☐	ApexSQL Mask	135.4 MB
☐	ApexSQL Plan	161.7 MB
☐	ApexSQL Propagate	90.5 MB
☐	ApexSQL Pump	155.8 MB
☒	ApexSQL Recover	55.0 MB
☐	ApexSQL Relector	170.2 MB
☐	ApexSQL Script	91.6 MB
☐	ApexSQL Search	150.5 MB

[目次に戻る](#)

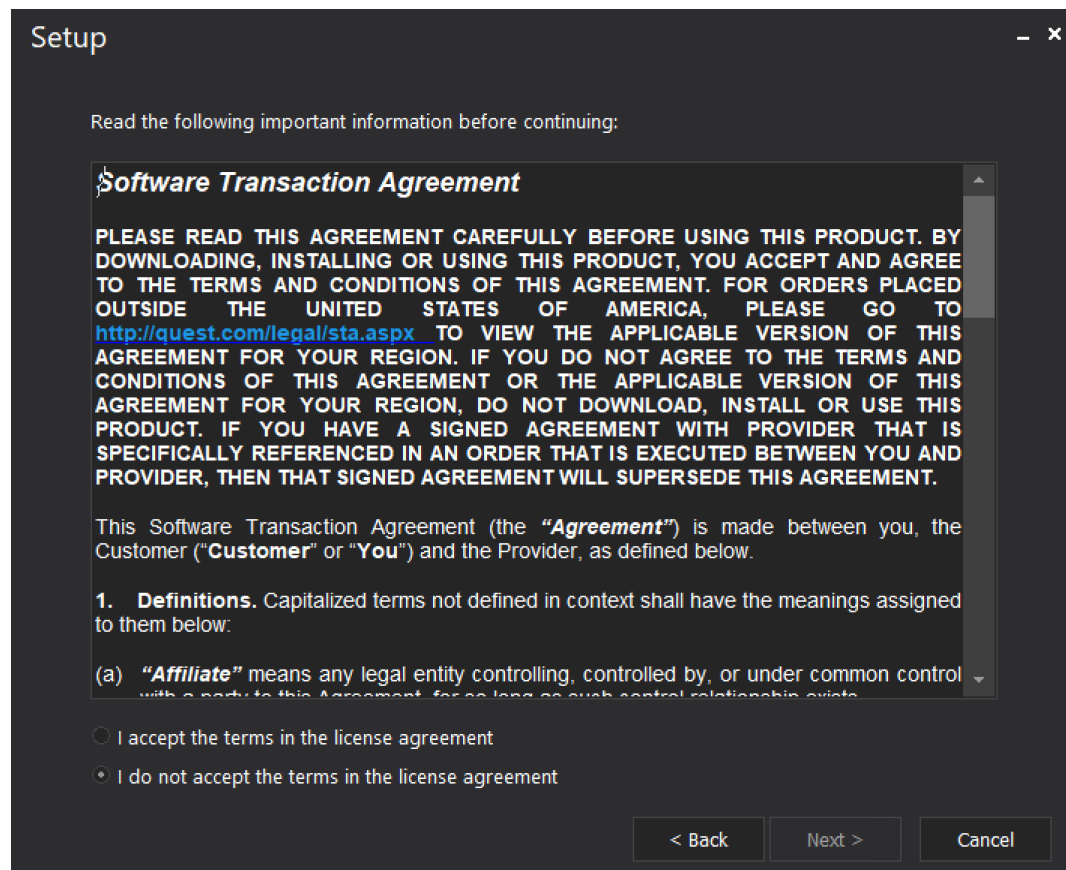
ApexSQL Recover のインストール

「Install ApexSQL Recover」を選択しウィザードに従ってインストールを実行します。



[目次に戻る](#)

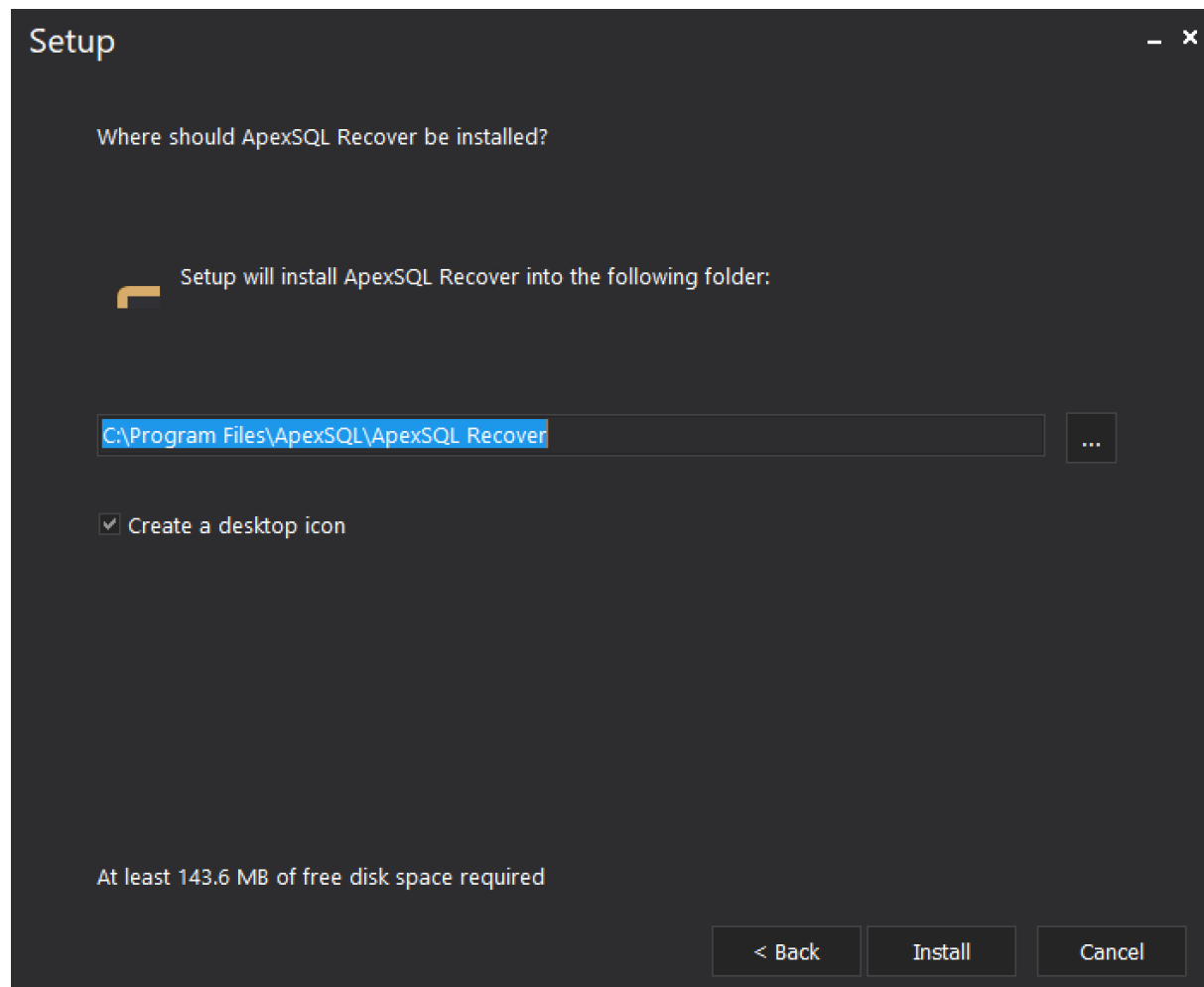
ApexSQL Recover のインストール



① ライセンス契約承諾「I accept the terms …」にチェックし、Next を選択。

[目次に戻る](#)

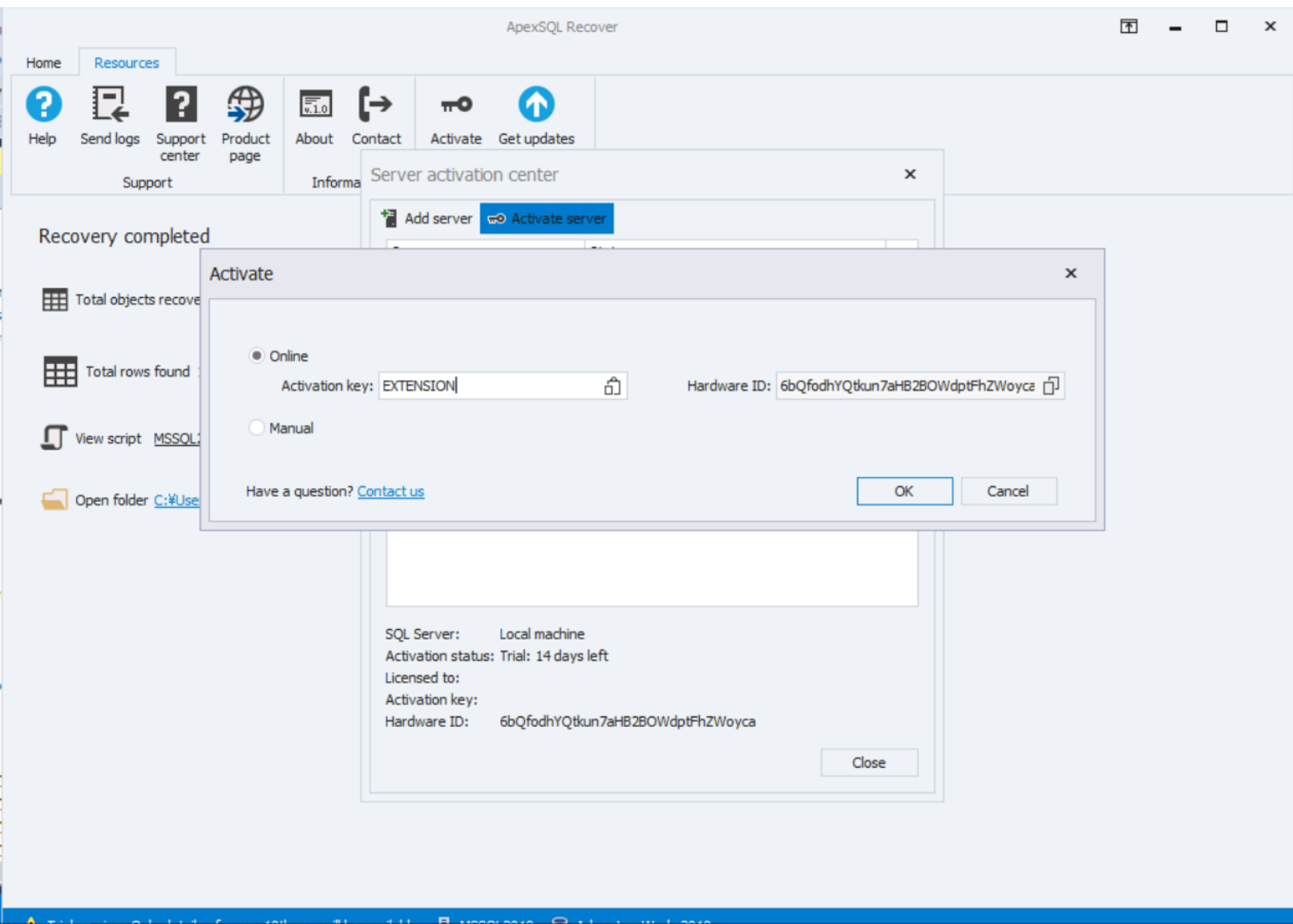
ApexSQL Recover のインストール



② Installを選択し開始します。

③ インストールの完了後、
Finishを選択しウィザードを閉じます。

ライセンスのアクティベーション



スタートメニューからApexSQL Recoverを起動します。

ライセンスを登録していない場合、ActivateをクリックしてHardware IDを確認、コピーします。

HardwareIDを申請して、Activation Keyを入手し、Activation keyフィールドに入力します。

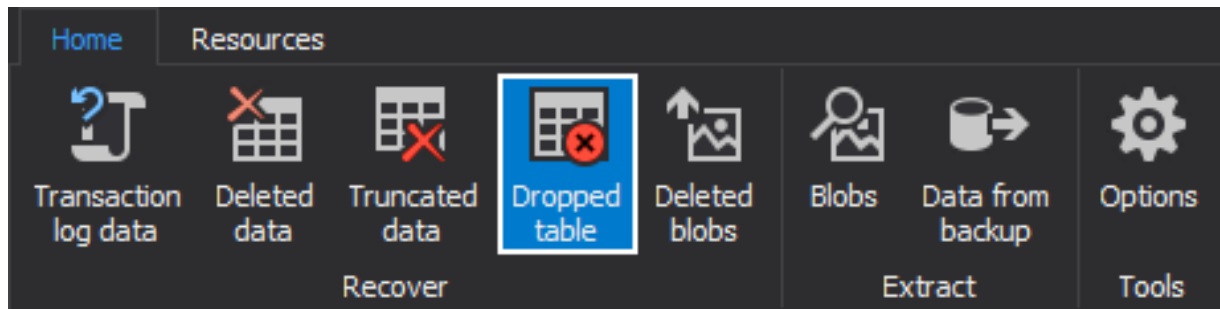
[目次に戻る](#)



DROPしてしまったテーブル のリカバリ

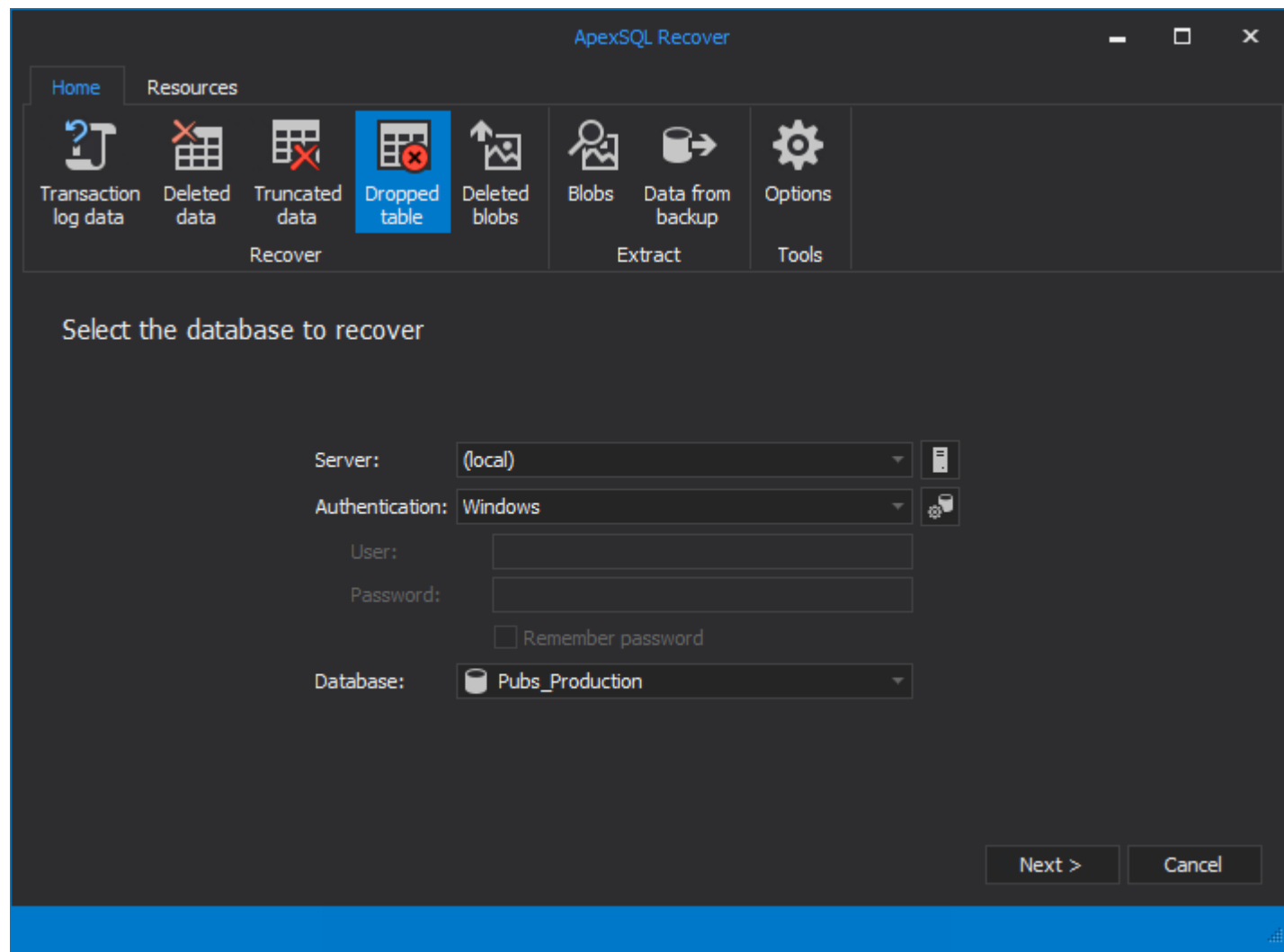
DROPしてしまったテーブルのリカバリ

スタートメニューからApexSQL Recover を選択し、起動します。



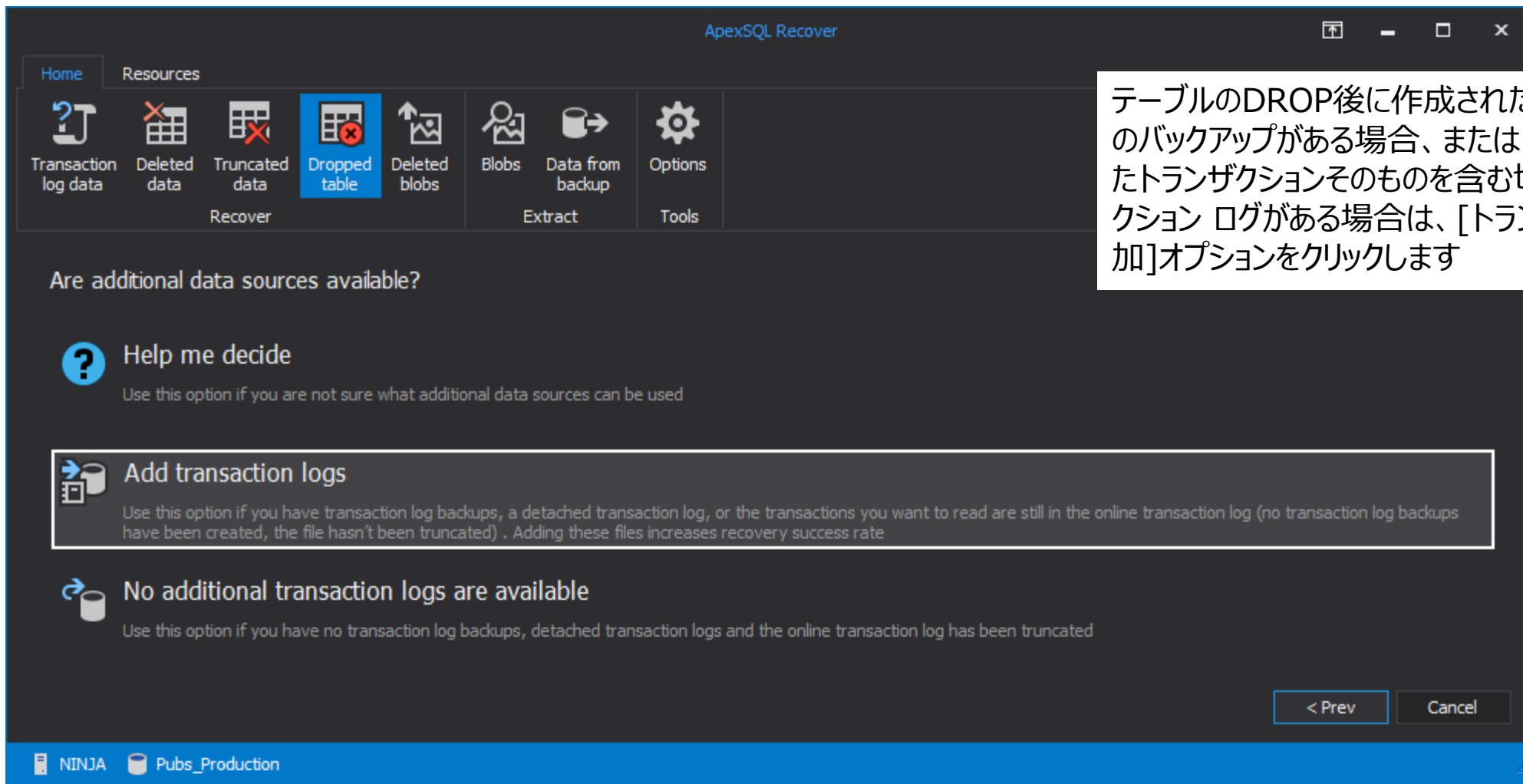
[ホーム]タブ で、[回復]グループの[DROPされたテーブル]ボタンをクリックします。

DROPしてしまったテーブルのリカバリ



テーブルを回復する必要があるデータベースに接続します。

DROPしてしまったテーブルのリカバリ



テーブルのDROP後に作成されたトランザクション ログのバックアップがある場合、またはDROPの原因となったトランザクションそのものを含む切り離されたトランザクション ログがある場合は、[トランザクション ログの追加]オプションをクリックします

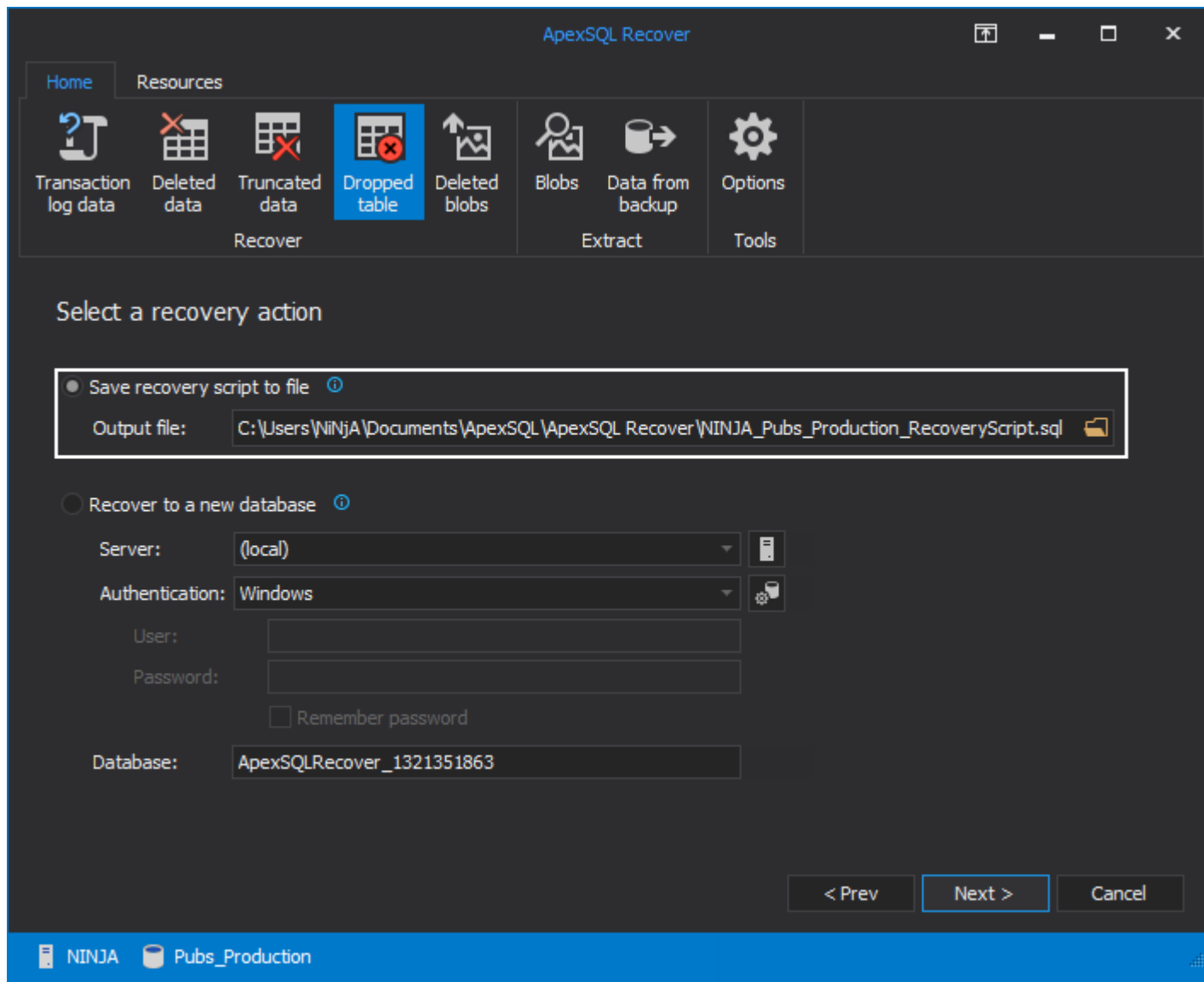
[目次に戻る](#)

DROPしてしまったテーブルのリカバリ

The screenshot shows the ApexSQL Recover application window. The top navigation bar includes 'Home' and 'Resources'. Below it, a row of icons represents different recovery methods: Transaction log data, Deleted data, Truncated data, Dropped table (highlighted with a blue border), Deleted blobs, Blobs, Data from backup, and Options. The 'Dropped table' icon is selected. The main area is titled 'Specify when the data was lost' and contains three radio button options: 'Last' (with a '24' hour(s) input), 'During this period of time:' (with 'From' and 'To' date/time pickers), and 'Date and time are unknown' (which is selected and highlighted with a white border). At the bottom right are '< Prev', 'Next >', and 'Cancel' buttons. The bottom status bar shows 'NINJA' and 'Pubs_Production'.

「データが失われた時期を指定する」ステップで、テーブルがDROPされた期間を選択します。これがいつ起こったのかわからない場合は、「日付と時刻が不明」オプションを選択したままにしておきます。

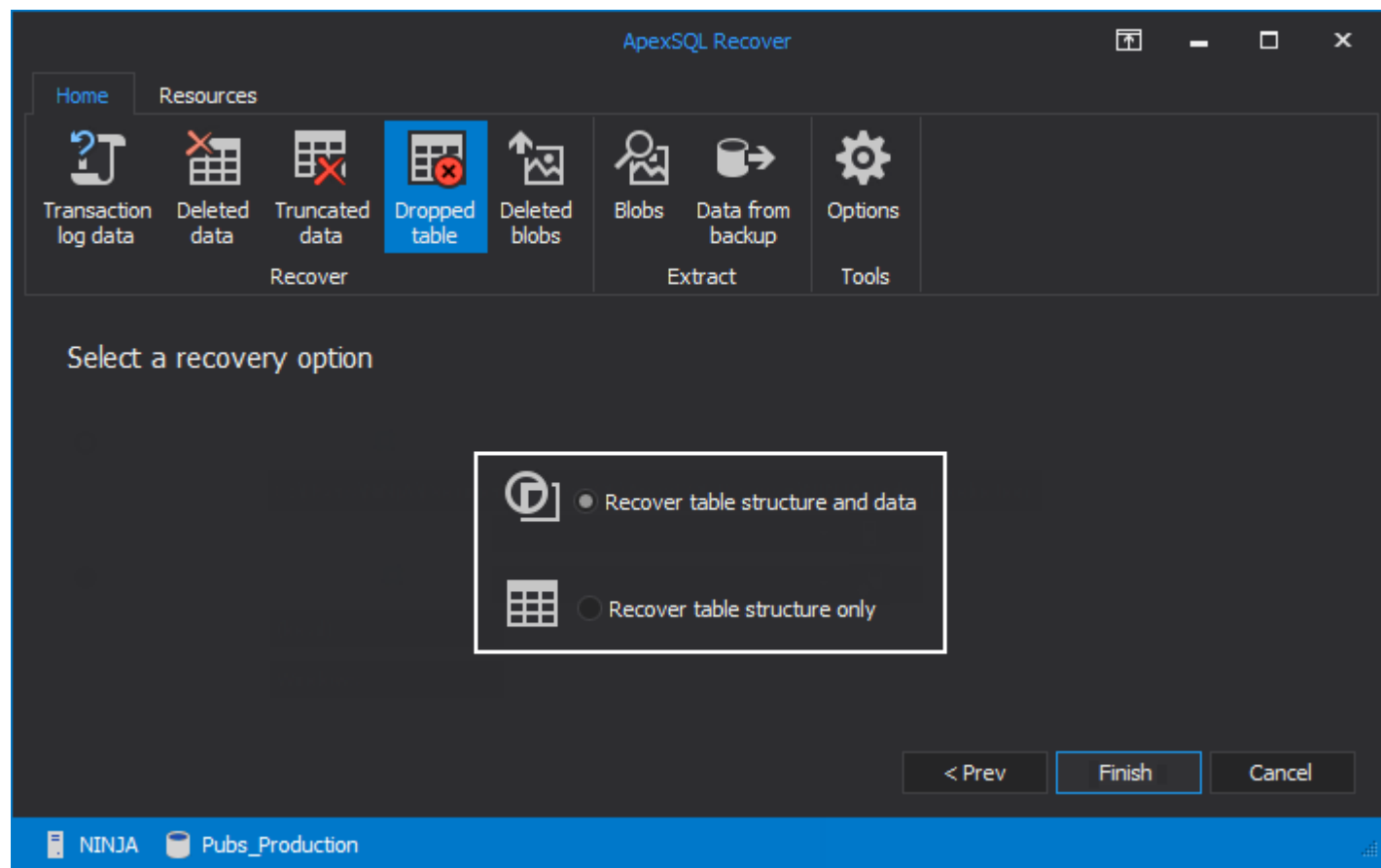
DROPしてしまったテーブルのリカバリ



ウィザードの「回復アクションの選択」ステップで、「スクリプトをファイルに保存」オプションを選択し、出力ファイルの場所を指定して、「次へ」ボタンをクリックします。

[目次に戻る](#)

DROPしてしまったテーブルのリカバリ



ウィザードの最後のステップでは、特定のリカバリプロセスに応じて、[テーブル構造とデータをリカバリする]または[テーブル構造のみをリカバリする]を選択し、[完了]ボタンをクリックしてリカバリを完了します。

DROPしてしまったテーブルのリカバリ

リカバリ スクリプトが生成されたら、
まずテスト用SQLサーバでそれを確認します。
リカバリする必要があるテーブルを見つけて実行します。

[注意] 無料トライアルでは、リカバリスクリプトは、レコード10行分のみ生成されます。機能が有効とご判断いただけましたら、製品版をご購入ください。

テスト用SQLサーバでリカバリが確認できたら、
リカバリスクリプトを本番SQLサーバにコピーして
本番SQLサーバで実行し、リカバリします。

本番SQLサーバ



テスト用SQLサーバ



① リカバリスクリプトを実行
して確認

② リカバリスクリプトを
本番SQLサーバへコピー

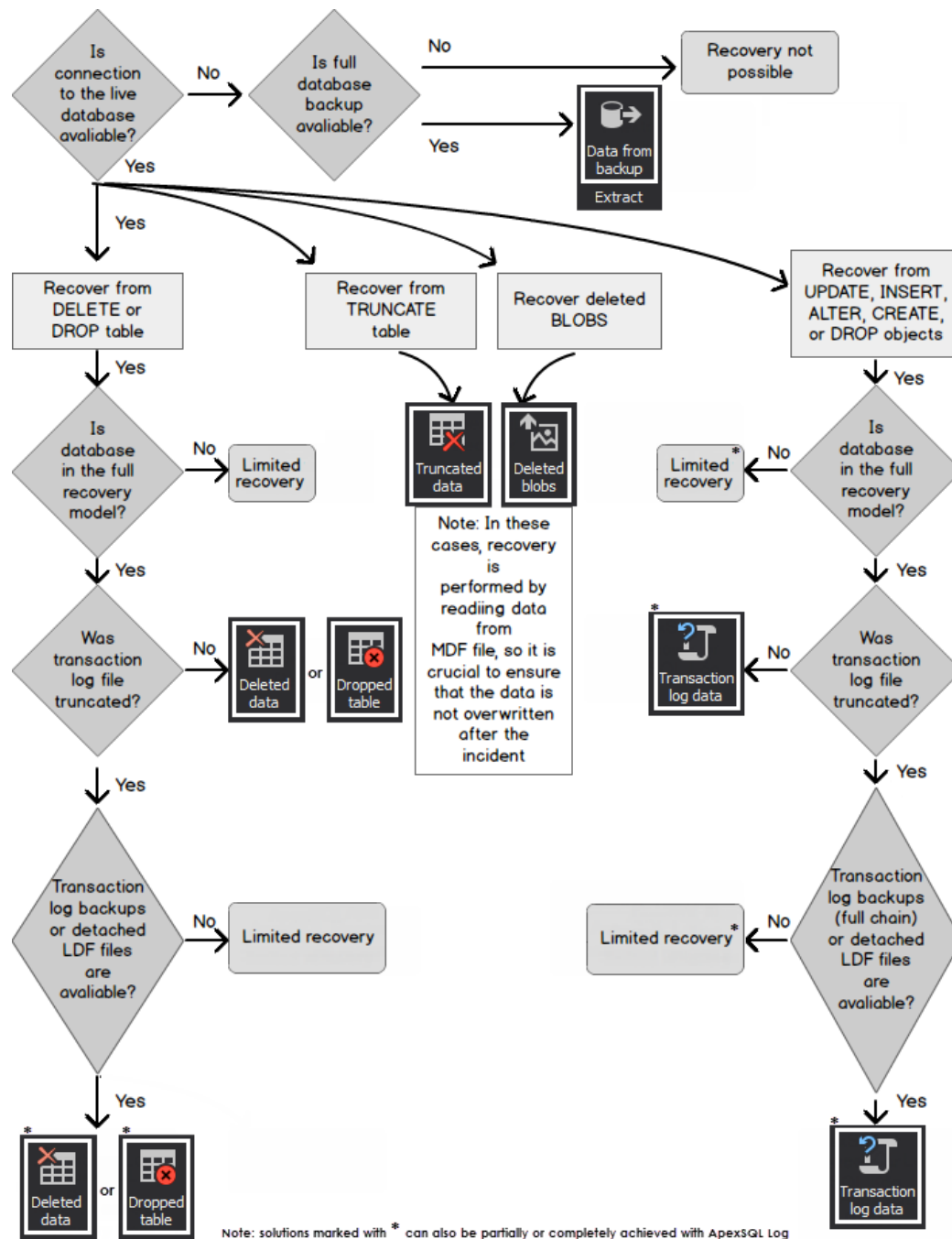


③リカバリスクリプトを実行
して復旧

復旧フローチャート

ApexSQLホームページにて
SQL Serverのトラブルに応じた
復旧フローチャートをまとめておりますので
ご参照ください

<https://www.quest.com/community/jp-ja/w/information-management-wiki/2318/sql-server>



Note: solutions marked with * can also be partially or completely achieved with ApexSQL Log

[目次に戻る](#)

ApexSQL Recoverの基本操作について説明いたしました。
詳細な機能については下記リンクのドキュメントをご参照下さい。

ApexSQL Recover – サポートページ （英語）

<https://support.quest.com/ja-jp/apexsql-recover/2019.02>